

特集：社会福祉研究の軌跡

## 第20回記念大会シンポジウムを終えて

After the 20th Memorial Symposium

沈 潔

SHen Jie

日本女子大学社会福祉学会第20回記念大会は、盛会裏に開催することが出来ました。本学会は、1994年に創設され、今年、創立20周年を迎えました。学会の前身は、1954年に故一番ヶ瀬康子先生らの呼びかけで組織された「日本女子大学社会福祉研究会」にさかのぼることができます。その歩みはすでに60年の歳月を辿ってきました。本学会は、社会福祉研究会の時代からも日本の社会福祉研究をリードし、時流による変化を丹念に追って「社会福祉学とはなにか」を常に追究してきました。

また、わが社会福祉学科は、1921年（大正10）に社会事業学部として開設され、日本最初の社会事業に関する女子高等教育機関となりました。日本社会福祉の歴史と学科の歴史を重ね合わせつつ、本学会の存立の意味も益々重要になっています。

2013年度は、20周年という節目を機に、一度原点に戻り、3年間の取り組みで学科及び学会の研究・教育を振りかえることにしました。大会テーマとして「社会福祉研究の軌跡～歴史研究から見えてくるもの～」を掲げ、歴史研究から見えてきた課題を整理し、展望を明らかにしたいと考えました。また、本学会の歴史研究の基礎を築いた故一番ヶ瀬康子先生を偲び、先生の歴史研究の世界を辿り、先生との対話を求めることも一つの趣旨となりました。

本記念大会シンポジウムにおいて3名の会員がそれぞれの視点から歴史研究について発表を行いました。発表プログラムは下記の通りです。

- 1 大友 昌子：「歴史研究という方法論—社会福祉研究におけるその有効性と可能性—」
- 2 片居木英人：「女性福祉の歴史的展開～一番ヶ瀬康子先生に学んで～」
- 3 中尾友紀：「労働者年金保険法立案の経緯」  
歴史意識に根ざして取り組んできた本学会の活動が、そのための政策、サービス、諸実践、生活の歴史研究を通して社会福祉政策及び社会福祉実践において開拓的な役割を自覚的に担って展開されてきました。3名の発表者は、いずれも学会及び記念大会の趣旨に相応しい研究発表を行いました。

2014年度の大会においては、これまで先駆的に取り組んできた「国際社会福祉の研究」を主題に、2015年度には「貧困研究」を主題に、大会のプログラムを企画しています。

どうか皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

